

組織部情報

No. 34

2013年

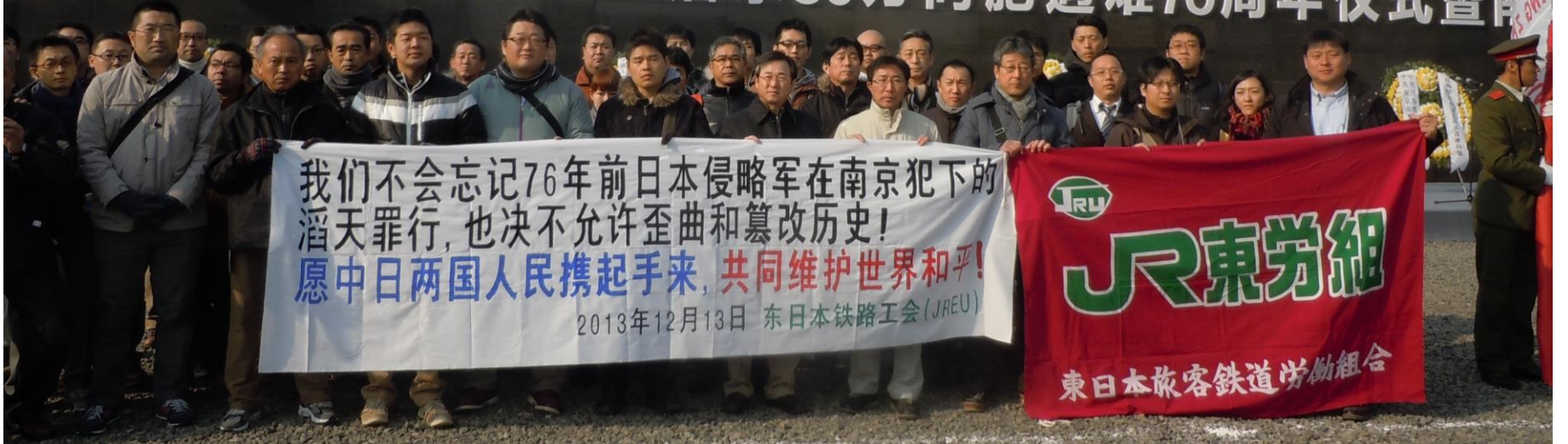
12月16日

JR 東労組本部

12・13—南京平和の為の国際交流

46名 現地に立ち平和を誓う!!

悼念侵华日军南京大屠杀30万同胞遇难76周年仪式暨南京



JR 東労組中央本部は、「12・13 南京-平和の為の国際交流」に 46 名の仲間と共に現地に立ち、中国侵略日本軍南京大虐殺遭難同胞紀念館にて開催された平和式典に参列してきました。追悼式典は、12月13日午前10時、甲高い防空警報(サイレン)が南京市内に鳴り響く中開催されました。

南京大虐殺事件から76年目を向かえた式典は、江蘇省・南京市の各界関係者、南京を訪れた平和友好関係者など約5千人が集まる中、旧日本軍による南京大虐殺の被害者30万人あまりに対して哀悼の意を捧げました。

南京市民の代表より「南京和平宣言」を読み上げ、「我々は、許すことはできるが、忘れてはならない。歴史を正視してこそ未来を切り開くことができる。戦後の平和秩序と、勝ち得た成果を守らなければならない。平和的に共存してこそ調和の取れた発展ができる」と表明され、私たちも、歳月が過ぎても歴史的事実をしっかりと受け止め後世に引き継いでいく事を式典に参加して思いを新たにしました。

横断幕：「私たちは76年前に日本軍が南京で犯した罪を決して忘れない。また、歴史を歪曲し、改ざんすることも許さない。中日両国民が手を取り合い、共に世界平和をつくりだそう！」

式典終了後、当時の生存者であるヨウ・スイエイ (89) さんから当時の辛い体験と、その後の人生について私たちに涙ながらに語って頂きました。ヨウさんの体験談を聞き、参加者からは「お礼の言葉」、「2度とこの様な辛い思いをする世の中にしてはならない」「お体を大事にして末永く健康で元気に生き続けて頂きたい」等の感想がありました。

また、意見交換でも、「日本の安倍政権に対する警鐘」「日本の未来と教育の問題」「悲惨な事実を忘れない」「後世に引き継ぐ」「2度と同じ過ちを繰り返さないよう青年部の育成を行う」「参加者自らが日本に帰ってから何をやるのか？何が出来るのかをハッキリさせる」「今後の職場から闘いをつくりだしていく」等の意見が出され、参加者全体で確認してきました。



生存者：ヨウスイエイさんと一緒に